



写真 2.11 上流面：洪水吐周辺

- ・全体的に遊離石灰の漏出と、樹脂塗装の剥離が著しい。



写真 2.12 上流面：J7 付近

- ・堤体継目 J7 及びこれに交差する水平打継目付近が凍害により剥落している。



写真 2.13 上流面：BL12 付近

- ・ 水平打継目に沿って剥離が見られる。



写真 2.14 上流面：BL6

- ・ 既補修部の打継目から遊離石灰が漏出している。

【監査廊内】 ※写真 2. 15～2. 16

- ・ 監査廊内のコンクリートは健全で、劣化は認められない。但し、ジョイント部からの遊離石灰の溶出が認められる。
- ・ ジョイント沿いの遊離石灰は、J6、J12 でやや多く、特に J12 では、鉄筋が腐食し褐色化した部分が認められる。



写真 2.15 監査廊内 J6 付近：

- ・ ジョイント沿いに遊離石灰が分離するが、コンクリートは健全で劣化は認められない。



写真 2.16 監査廊内 J8 付近

- ・ジョイント沿い及び上流側の横継目から遊離石灰が分離する。
- ・コンクリートは健全で、劣化は認められない。

(2) 非破壊検査

簡易弾性波測定、劣化深さ、シュミットハンマー試験に関する試験結果については、以下のとおり。

【簡易弾性波速度測定】

・測定規準

- a : 0~1000m/s : 劣化が著しく砂状化
- b : 1000~2000m/s : 凍害による表層劣化
- c : 2500m/s 以上 : 健全なコンクリート

・測定結果

上流面については、ジョイントに近い横測線、あるいは縦測線で表層劣化が推測され（1100~2400m/s 程度）、それ以外については健全なコンクリートと判断できる。

下流面については、ジョイント部、ブロック部に関係なく全面的に 1000m/s~2500m/s の範囲で、凍結融解による表層劣化が見受けられた。